

しくないやうですが、私は、山の雪景色でも見るのみで満足です。今年は大變暖かで京都と同じ位です。初めて經驗することの多いだけに、時の経つのが早くて、また間もなく、カスタニエンの芽吹く時が来るだらうなど考へると、あはたしい旅人の心がシミ／＼と感ぜられます。

(一九三一、二、六)

## 新刊紹介

フイヒテ全知識學の基礎其他

木村素衛譯  
岩波書店刊

理性は決して手を拱いて傍觀するものではない。たとへそれが宇宙の莊嚴であつても尙ほフアウストの嘆きの如くにすばらしい芝居を看ただけの事である。しかし理性は單に看るだけのものではない。理性は實踐的なのである。

„Die Vernunft ist praktisch.“ 此の言葉をフイヒテは幾度くり返しても、言ひ足らぬ思ひがしたであらう。まことにスピノザの鐵の如き因果の鎖からフイヒテを救助したものはカントの實踐理性の優位に外ならなかつたからである。理性はまことに實踐的である。存在の根據はフイヒテにとつては何よりもまづ實踐として捕へられてゐるのである。それであるからフイヒテは物自體とは何であるかとの問に對して、「我々が物々自體を作るべき通りに」(譯書四九七頁)と答へてゐるのである。フイヒテにとつては、單なる理論理性は自然に依存してのみあり、從て又自然と共に失はれ得べきものであつた。單に眺める理性は未だ眞の理性ではなく、眞の我ではなかつた。實踐的な我のみが我なのである。フイヒテは觀念論者であつたであらう。しかし彼の觀念論は單なる觀念が對象を創造すると云ふ如きそれではなくして、我々の實踐が初

めて對象を決定し創造する事をとくそれなのであつた。彼自らの言葉を借りるならば、フイヒテの觀念論は「實踐的なる觀念論」なのである(譯書二四九頁)。その事を我々は忘れてはならない。

人は今しきりに實踐を説く。しかし實踐の深き哲學的根據を捕へ得た幾人の思想家があるであらうか。哲學が單なる解釋でなき事、それ自ら一つの「行」なる事を教へる事フイヒテの如き人があつたであらうか。人は歴史の問題につき、社會の問題についてマルクスにききヘーゲルにきく。しかし眞の實踐を教へるものはフイヒテではなかつたであらうか。

多年フイヒテの主著の翻譯に従事してゐられた友、木村氏の業なつて、西田先生の序文に惠まれて世に出でた。親しくその經過を知る私には、人事ならぬ喜が湧く。かつて上加茂なる君の家に共にフイヒテを讀んだ人々の内、淡野君は臺北に、相原君は奉天に、しかして君自らも廣島に移られた。我々の生活はあわただしかつた。しかしそれにもまして我が國の思想界の潮流はあわただしかつた。その日まぐるしい幾年かを君は丹念に知識學の翻譯に従つたのである。友人として私は此の書の完成を喜ばずにはをれない。いかにそれが些少のものとは言へ、自らも此の書に關係を有つ私はこゝに君の譯の良否を言ふ事は許されない。たゞ私は此の書の成立にあつたて、君がいかに良心的であつたかを人々に告げたい。此の譯書のいづれの頁にも、少くとも人は君の苦心の跡を見出

す事が出来るであらう。私は此の書によつて一人でも多くフイヒテへの親密を得るに到る事を切望する。(高坂正顯)

## 彙報

### 心理學讀書會

一月二十三日金曜午後三時より心理學教室に於て左の發表あり。

セームス

恒吉 忠 康君

青年の交友生活につき

脇 勝 嘉君

二月六日金曜午後三時より心理學教室に於て左の發表あり。

「ハニカミ」と「ハゲラヒ」統計的研究による羞耻の序論的

一研究

岡 原太 郎君

社會的暗示作用

毛 利 敦 丸君

### 倫理學會

二月七日夜樂友會館に於て左の講演あり。

アリストフアネスの作品 本學助教 原 隨 圓君

### 印哲佛教學會

二月四日夜樂友會館に於て左の講演あり。

世親の性格について 本學名譽教授 松本文三郎君